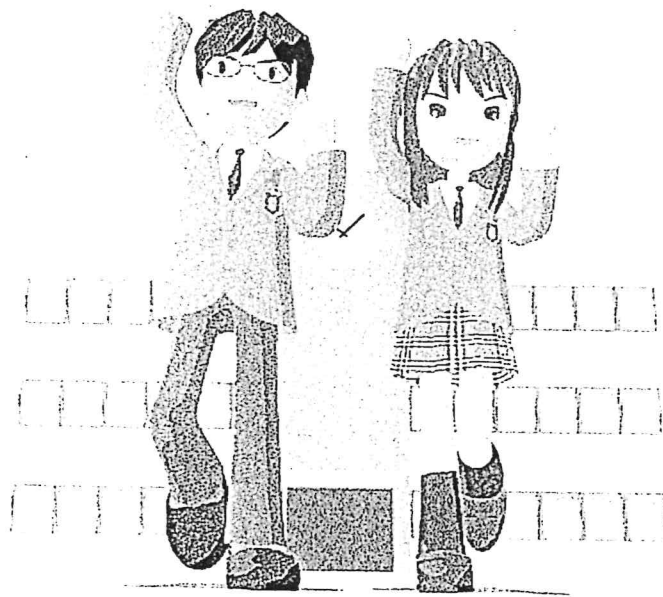


令和7年度

シラバス



福山高校 普通科1年

教育課程	-----	1
国語	-----	2
地理歴史	-----	6
数学	-----	10
理科	-----	12
保健体育	-----	14
芸術	-----	18
外国語(英語)	-----	24
情報	-----	26

入 学 年 度				令 和 7 年 度				備 考
学 年			1	2	3	計		
教 科	科 目	標準 単位						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2	国語表現, 古典探 究履修者は,2,3年 次継続履修
		言語文化	◎2	2			2	
		論理国語	4		2	2	4	
		文学国語	4		2	2	4	
		国語表現	4		★2	★2	★4	
		古典探究	4		★2	★2	★4	
	地理歴史	地理総合	◎2	2			2	地理探究, 日本史 探究履修者は,2,3 年次継続履修
		地理探究	3		■2	■3	■5	
		歴史総合	◎2	2			2	
		日本史探究	3		■2	■3	■5	
	公 民	公共	◎2		2		2	3年次の数学Cは, 2年次に 理数探究基礎を履修したも のが選択履修 <

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「現代の国語」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 (4) 現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章を書くことができる。								
教 材		使用教科書 三省堂 新現代の国語 副 教 材 尚文出版 常用漢字ダブルクリア								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	学び直し 入門	・自身の基礎力の確認と定着を図る。 ・気持ちがそれぞれ伝わるように言い方を考える。		1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	わかり合うために	・情報を読み解き、要約し、まとめる			○	○	○	
		6月	確かな情報を伝えるために	・文章を把握し、資料を加え考えをまとめ、発表する		1 学 期 期 末	○	○	○	
		7月	情報を生かすために	・文章を把握し、調べ、報告書を書く。		2 学 期 中 間	○	○	○	
	2 学 期	9月	よりよい読み手になるために	・文章の中から、筆者の主張をつかむ。 場に応じて伝えるために		2 学 期 期 末	○	○	○	
		10月	説得力を高めるために	・ブクトークを行うことで、説得力を高めるためにどうすればよいか考える。			○	○	○	
		11月		・パネルディスカッションの例を参考にし、話し合いを行う。			○	○	○	
		12月	考えを共有していくために	伝えることの意味や方法を理解し、話す・聞くことについて考える。			○	○	○	
	3 学 期	1月	よりよい書き手になるために	・テーマに基づき文章を書き、批評し合う。		学 年 末	○	○	○	
		2月								
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)漢字の意味をしっかりと捉え、語彙力を高めるように努めましょう (3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・レポート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。								

教 科	国語	科 目 名	現代の国語
-----	----	-------	-------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文 レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題 提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「言語文化」		単 位 数			知 識	思 考 ・ 判 断	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 第一学習社 高等学校 言語文化 副 教 材 尚文出版 常用漢字ダブルクリア								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	古文入門『児のそら寝』ほか	古文の文章になれるとともに、現代に通じる話の面白さを知る。		1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	漢文入門 歌物語『伊勢物語』	漢文のきまりを学び、訓読になれる。 話の中で和歌が果たしている役割を押さえる。		1 学 期 期 末	○	○	○	
		6月	故事成語「漁父之利」ほか	現代使われている言葉が、漢文由来することを知る			○	○	○	
		7月	近現代の詩歌(俳句など)	詩歌のリズムに触れ、俳句を作成する。		2 学 期 中 間	○	○	○	
	2 学 期	9月	随筆『枕草子』『徒然草』 史伝「完璧」ほか	自由に記述された随筆を読んで、ものの見方考え方を理解する。 文章の内容や作品に現れるものの見方 や考え方を捉え、内容を解釈する方法を 学ぶ。		2 学 期 期 末	○	○	○	
		10月	日記『土佐日記』	内容や展開を的確に捉え、筆者のものの 見方や考え方を読み取る。			○	○	○	
		11月	漢詩(唐詩・日本の漢詩)	表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、中国と日本の文化との関係に理解を深める。			○	○	○	
		12月	軍記物語『平家物語』	作品に現れるものの見方考え方を捉え、内容を理解するとともに、歴史的な文体について理解し、そのリズムを読み味わう。		学 年 末	○	○	○	
	3 学 期	1月	論語	孔子のものの見方考え方を理解する。			○	○	○	
		2月	古典の詩歌	和歌の鑑賞の仕方を理解し、特徴を捉える。			○	○	○	
		3月								
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)指示したノートの取り方を守り、しっかりとまとめましょう。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)しっかりと声を出して音読をしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		しっかりと、ノートを取りましょう。 古文・漢文は予習・復習が大切です。毎日の積み重ねを怠らないようにしましょう。								

教 科	国語	科 目 名	言語文化
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんとルールに則り写し、自分なりにまとめている。	板書事項をルールに則り写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	地理歴史		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	地理総合		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を培う。								
教 材		使用教科書：		第一学習社 帝国書院	高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる 標準高等地図					
		補助教材：		第一学習社 第一学習社	地理総合ノート コネクト地理2024					
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	イントロダクション		・オリエンテーション，国名クイズを実施		1 学 期 期 末	○		○
		5月	第1編 1章 地図や地理情報システム と現代世界		・位置の表し方，地図とGISの活用を理解 ・領土問題，交通，貿易などを理解する。			○	○	○
		6月	第2編 1章 生活・文化の多様性と 国際理解		・世界の生活を理解し，文化について資料読取を実践する。 ・世界の気候について理解する。			○	○	○
		7月			・世界の「衣」「食」「住」を理解する。			○	○	○
	2 学 期	9月			・産業の発展，情報産業などを理解する。 ・宗教，世界の文化などを理解する。		2 学 期 中 間	○	○	○
		10月						○	○	○
		11月	第2編 2章 地球的課題と国際協力		・持続可能な開発目標(SDGs)の理解する。 ・貧困問題，人口問題，食糧問題などを理解する。 ・資源，エネルギー，都市問題などを理解する。		2 学 期 期 末	○	○	○
		12月			・地球環境問題を理解する。 ・民族問題，紛争を理解する。			○	○	○
	3 学 期	1月	第3編 1章 自然環境と防災		・世界の大地形，自然災害， 日本の気候，災害への備えなどを理解する。		学 年 末	○	○	○
		2月	第3編 2章 生活圏の調査と 地域の展望		・地域調査の方法を理解する。 さらに，調査，成果発表などを行う。			○	○	○
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		・教科書，地図帳，コネクト地理総合，地理総合ノートは必ず持参すること。 ・授業に全力を尽くしましょう！説明をよく聞き，写真や地図，グラフなどをよく見ましょう。 ・地理総合ノートを使って授業を行います。 ・地理総合ノートは学期末に回収，点検します。チェックポイントは以下の通りです。 ①内容が不足なくまとめられている。 ②自分以外の人が見ても理解できる。 ・授業があった日のうちに，教科書の該当ページを読み直しましょう。定着力が上がります。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能…ワークブック，定期考査，小テスト，演習課題，資料読取 (2) 思考・判断・表現…定期考査，小テスト，演習課題，レポート (3) 主体的に学習に取り組む態度…振り返りシート，レポート，発表(プレゼン) 単元ごとに到達度に応じて，(1)～(3)にA～Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		・定期考査と別に，授業内で単元ごとの小テストを行います。								

教 科	地理歴史	科 目 名	地理総合	
-----	------	-------	------	--

知識・技能	到達目標	・地理的事象に関する知識を身に付け、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。 ・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習事項の記録	ワークシート	指示された内容に加え補足事項などもまとめることができた。	指示された内容を不足なくまとめることができた。	指示された内容を十分にまとめられなかった。
	知識の習得	定期考査 小テスト	学習事項を十分に理解することができた。	学習事項をおおむね理解することができた。	学習事項の理解が十分でなかった。
	概念的な理解	演習課題	学習事項を応用して十分に解答することができた。	学習事項をもとにおおむね解答することができた。	学習内容をもとにしても十分な解答ができなかった。
	技能の習得	資料読取	各資料が表している事象を十分に読み取ることができた。	各資料が表している事象をおおむね読み取ることができた。	各資料が何を表しているか読み取ることができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・社会における事象を地理的な事象として見いだしたり、地理的な課題として考察、構想することができる。 ・地理的事象について考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	多面的・多角的な考え方	定期考査 小テスト	社会における地理的な課題の解決について具体的に考えることができた。	社会における地理的な課題の解決について考えることができた。	社会における地理的な課題について考えることができなかった。
	多面的・多角的な視点の習得	演習課題	身の回りの事象を地理的な事象として見だし、課題をとらえることができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見いだすことができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見いだすことができなかった。
	学習事項のまとめ	レポート	地理的事象について考えたことを効果的に説明したり、議論したりできた。	地理的事象について考えたことを説明することができた。	地理的事象について考えることができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習の調整	振り返りシート	学習の取組状況を十分に振り返り、改善点まで考えることができた。	学習の取組状況を振り返ることができた。	学習の取組状況を十分に振り返ることができなかった。
	粘り強い取組	レポート	社会課題を主体的にとらえ、具体的な解決策を考えることができた。	社会課題を主体的にとらえ、解決しようとすることができた。	社会課題を主体的にとらえることができなかった。
	学習事項の発表	発表 プレゼン	準備した内容を発表し、他の発表へ質問等を行うことができた。	準備した内容を発表することができた。	準備が不十分で発表することができなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科 科目名	地理歴史 歴史総合	履修学年 単 位 数	1 学 年 2 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		世界の歴史の展開を、諸資料にもとづき地理的条件や因果関係などを総合的に考察し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 現 判 断 ・ 表	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使用教科書「歴史総合」実教出版 補助教材「歴史総合 演習ノート」実教出版)							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1章 近代化への胎動 ・江戸時代の安定と動揺、ヨーロッパのアジア進出と争いの動きについて学ぶ。 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」			1 学 期 期 末	○	○	○
		5月	・国民国家を形成していく欧米の状況と、変容を迫られるアジア諸国の様子について学ぶ。				○	○	○
		6月	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 ・国民国家の成立と世界各地での民族的な抵抗の様子について学ぶ。 ・明治期における日本の政治的近代化への過程と国際関係について学ぶ。				○	○	○
			第4章 帝国主義の時代 ・帝国主義諸国による世界分割の動きと、アフリカ・東アジア・太平洋地域に与えた影響について学ぶ。				○	○	○
		7月	・日清・日露戦争を通じた、日本の国際的地位の動向について学ぶ。 ・産業革命による日本経済と社会の変容について学ぶ。				○	○	○
							○	○	○
	2 学 期	9月	第5章 第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦の展開と影響、大戦後の国際秩序の形成について学ぶ。 ・ワシントン体制のもと、米英と協調路線をとり、国内でも政党政治の時代を迎えた日本の動向について学ぶ ・アジア、東ヨーロッパなどの民族自決・民族運動の展開について学ぶ。			2 学 期 中 間	○	○	○
		10月	・日本国内における社会運動の展開と普通選挙実現にむけた経過について学ぶ。				○	○	○
			11月	第6章 経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌と各国の対応、ファシズムの時代への移行について学ぶ。 ・東アジアを緊張させた日本の満州侵略とアメリカとの対立、第二次世界大戦の勃発について学ぶ。 ・戦時下における日本国内の社会的・経済的状況について学ぶ。 ・日本の民主化、朝鮮の分断、アジアにおける米ソの対立について学ぶ。 ・アメリカとの関係を強める道を選択していく日本の動向について学ぶ。			2 学 期 期 末	○	○
					○	○		○	
					○	○		○	
					○	○		○	
	3 学 期	1月	第7章 冷戦と脱植民地化 ・冷戦の深刻化と、植民地の独立や日本の主権回復に与えた影響について学ぶ。 ・日本の国際社会の復帰と高度経済成長について学ぶ。			学 年 末	○	○	○
		2月	第8章 多極化する世界 ・米ソ二大国主導から多極化し、国際秩序が変化していく過程について学ぶ。 ・現代世界の大きな課題である地域・民族紛争、国際的なテロ、発展途上国の貧困問題について学ぶ ・近年の東アジアにおける相互交流と相互理解の動きについて学ぶ				○	○	○
			3月				○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)常日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に関係する事柄に興味を持つ。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄		※考查前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。							

教 科	地理歴史	科 目 名	歴史総合
-----	------	-------	------

知識・技能	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係を理解し、知識を身に付けている。 ・話し合い活動や学習課題などを行い、それらを的確にまとめ、歴史的事象や歴史の流れを探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりと、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査（小テスト）	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分かなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度（定期考査）	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	提出すべき課題を期限内にきちんと提出することができる。	課題、ノートなどの提出	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	提出に不足があり、期限に迫られて（遅れて）提出していた。	全く提出できなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	数学		履修学年	1学年 5単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	数学Ⅰ		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基本的な概念や原理原則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え根拠を示して判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 新数学Ⅰ（東京書籍）								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	数の計算	義務教育範囲の数学的な計算の技術について復習する。			中 間 考 査	○		○
		5月	数と式	・文字を使った式や、展開、因数分解といった文字を使った式の計算のルールについて学習する。				○	○	○
		6月		・平方根や、分数の性質について学習する。			期 末 考 査	○		○
				・1次方程式、1次不等式、2次方程式について、解き方を学習する。				○		○
	2 学 期	7月	2次関数	・2次関数の性質や、グラフとの関係を学習する。			中 間 考 査	○	○	○
		9月		・2次関数の最大値・最小値について学習する。				○	○	○
		10月		・2次関数のグラフを使った2次不等式の解法について学習する。			期 末 考 査	○		○
		11月	三角比	・タンジェント、サイン、コサインの定義や、活用の仕方について学習する。				○		○
	3 学 期			・三角比の面積の公式や、正弦定理、余弦定理を用いて、実際に様々な図形に活用する。			学 年 末 考 査	○	○	○
		12月						○	○	○
		1月	データの分析	・データの特徴を把握し、整理してデータを読み解く手法について学習する。				○	○	○
		2月	集合と論証	・集合を使った論理的な考え方を活用して、命題の証明について学習する。				○	○	○
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週に1回行う計算テストも評価の対象になるので、週末課題にもしっかりと取り組みましょう。								

教 科	地理歴史	科 目 名	歴史総合
-----	------	-------	------

知識・技能	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係を理解し、知識を身に付けている。 ・話し合い活動や学習課題などを行い、それらを的確にまとめ、歴史的事象や歴史の流れを探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりと、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査（小テスト）	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分らなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度（定期考査）	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	提出すべき課題を期限内にきちんと提出することができる。	課題、ノートなどの提出	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	提出に不足があり、期限に迫られて（遅れて）提出していた。	全く提出できなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	数学		履修学年	1学年 5単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	数学 I		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基本的な概念や原理原則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え根拠を示して判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 新数学 I (東京書籍)								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	数の計算	義務教育範囲の数学的な計算の技術について復習する。			中 間 考 査	○		○
		5月	数と式	・文字を使った式や、展開、因数分解といった文字を使った式の計算のルールについて学習する。				○	○	○
		6月		・平方根や、分数の性質について学習する。			期 末 考 査	○		○
				・1次方程式、1次不等式、2次方程式について、解き方を学習する。				○		○
	7月	2次関数	・2次関数の性質や、グラフとの関係を学習する。				○	○	○	
	2 学 期	9月		・2次関数の最大値・最小値について学習する。			中 間 考 査	○	○	○
		10月		・2次関数のグラフを使った2次不等式の解法について学習する。				○	○	○
		11月	三角比	・タンジェント、サイン、コサインの定義や、活用の仕方について学習する。			期 末 考 査	○		○
		12月		・三角比の面積の公式や、正弦定理、余弦定理を用いて、実際に様々な図形に活用する。				○	○	○
	3 学 期	1月	データの分析	・データの特徴を把握し、整理してデータを読み解く手法について学習する。			学 年 末 考 査	○	○	○
		2月	集合と論証	・集合を使った論理的な考え方を活用して、命題の証明について学習する。				○	○	○
		3月								
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週に1回行う計算テストも評価の対象になるので、週末課題にもしっかりと取り組みましょう。								

教 科	数学	科 目 名	数学 I
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり, 数学的に解釈することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり, 処理する技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し, 自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し, 提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について, どのような考え方が必要か自分の中で思考して, 用いる定理や公式を判断し, 実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し, それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと, その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ 自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	理科		履修学年	1 学 年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「科学と人間生活」		単 位 数	2 単 位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。								
教 材		使用教科書： 東京書籍 科学と人間生活 副 教 材： 東京書籍 ニューサポート科学と人間生活								
学 習 の 内 容	1 学期	4月	序章 科学技術の発展	・科学技術の進歩・発展について学習する			1 学期 期 末	○	○	○
		5月	生命の科学	・ヒトの視覚と光による影響について学習する (実験 錯視の体験)				○	○	○
		6月		・血糖濃度を調節するしくみについて学習する (実験 植物細胞の観察)				○	○	○
				・体を守る免疫のしくみについて学習する ・遺伝子のはたらきについて学習する				○	○	○
		7月	物質の科学	・リサイクルについて学習する				○		○
	2 学期	9月		・金属の性質について学習する (実験 合金の作成) (実験 金属のイオン化傾向)			2 学期 中 間	○		○
		10月		・プラスチックの性質について学習する (実験 プラスチックの性質)				○	○	○
		11月	光や熱の科学	・光の性質について学習する (実験 光の反射・屈折・回折)			2 学期 期 末	○	○	○
		12月		・光の色と見え方について学習する (実験 簡易分光器の観察)				○	○	○
		3 学期	1月		・電磁波とその利用例について学習する			学 年 末	○	
	2月		宇宙や地球の科学	・身近な自然景観の成り立ちについて学習する			○			○
	3月			・自然災害と防災について学習する			○		○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	理 科	科 目 名	科学と人間生活
-----	-----	-------	---------

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる	実験結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実験結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく図などで表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科	保健体育		履修学年	1学年 3単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	体育		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉 現代高等保健体育ノート・ステップアップ高校スポーツ								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション・授業の心得、体育館施設利用の説明 集団行動・集団行動の基本的動作確認 第2ラジオ体操・第2ラジオ体操の動きの確認				実 施 し ま せ ん		○	
		5月	体づくり運動・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、 健康の保持増進や体力の向上を目指す学習					○	○	○
		6月						○	○	○
			球技Ⅰ・武道 選択 ・ネット型、ベースボール型選択の場合、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体 力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で 仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多 様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習					○	○	○
		7月	体育理論・スポーツの発祥と発展(①～③)					○	○	○
	2 学 期	9月	球技Ⅱ・武道 選択 ・ゴール型選択を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体 力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦 に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決し たりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用 いた攻防を展開する学習					○	○	○
		10月								
		11月	陸上競技・長距離走の競技を行い、記録の向上や競争の楽しさや喜び を味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解すると ともに、長距離走の技能を身につける					○	○	○
		12月	体育理論・スポーツの発祥と発展(④～⑥)					○	○	○
	3 学 期	1月	体づくり運動・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、 健康の保持増進や体力の向上を目指す学習						○	○
2月		球技Ⅲ ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観 察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間 と連携しゲームを展開する学習				○	○	○		
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		・実技を伴う教科なので、体操服等に更衣して運動することが授業の原則です。 ・体育理論は、講義形式です。教科書・ノート・プリント等を活用します。 ・ケガ等の特別な事情で運動ができない場合には事前に連絡をします。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(スキルテスト、学習課題、小テスト、ノート、プリント) (2) 思考・判断・表現(学習課題、レポート、ノート、プリント) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題提出、ノート、プリント) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		運動制限等がある場合には、教科担任に相談して学習に取り組むこと。								

教 科	保健体育	科 目 名	体育
-----	------	-------	----

知識・技能	到達目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動の多様性や体力の必要性について理解する	レポート 小テスト	体の動かし方や用具の操作方法、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解していない。
	各種運動の技能を身に付ける	スキルテスト	各領域の特性や魅力に応じた、各領域における技能や攻防の様相、動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できていない。
思考・判断・表現	到達目標	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考する	レポート 学習カード	各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用し、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができない。
	課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う	発表 話し合い活動	根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えることができる	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる	観 察 レポート	運動を継続することの意義などを理解し、取り組むべき課題の解決の過程を示し、主体的に仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができない。
	健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う	観 察 ノート	段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認し、環境の変化などを予見して危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	保健体育		履修学年	1 学年 1 単位	考 査 範 囲	評価の観点			
		科目名	保健		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。									
教 材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉現代高等保健体育ノート									
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション		・国民の健康課題や健康の考え方についての学習	一 学 期 期 末		○	○	○	
			健康の考え方(1)								
		5月	生活習慣病などの予防と回復				・生活習慣病における健康課題についての学習		○	○	○
		6月					・がんにおける健康課題についての学習 ・運動、食事、休養・睡眠における健康課題についての学習		○	○	○
	2 学 期	7月	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康		・喫煙と飲酒における健康課題についての学習 ・薬物乱用における健康課題についての学習	二 学 期 期 末		○	○	○	
		9月	精神疾患の予防と回復		・精神疾患の特徴についての学習 ・精神疾患における健康課題についての学習			○	○	○	
		10月	現代の感染症とその予防		・感染症における健康課題についての学習 ・性感染症・エイズにおける健康課題についての学習			○	○	○	
		11月									
	3 学 期	12月	健康の考え方		・健康に関する意思決定・行動選択についての学習 ・健康に関する健康づくりについての学習	三 学 期 期 末		○	○	○	
		1月	安全な社会づくり		・事故の現状と発生要因についての学習 ・安全な社会の形成や交通事故防止等についての学習			○	○	○	
		2月									
		3月	応急手当		・応急手当の意義とその基本についての学習 ・日常的な応急手当や心肺蘇生法についての学習			○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		・授業の中で、教科書、ノート、プリント、タブレット等を活用します。 ・知識や理解だけにとどまらず、日頃の生活の中での実践へとつなげられるように取り組みます。 ・ノートの復習問題に取り組み、授業の振り返りを行います。									
評 価 方 法		(1) 知識・技能(学習課題、考查、ノート、プリント、レポート) (2) 思考・判断・表現(学習課題、考查、ノート、プリント、レポート) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題提出、ノート、プリント) 单元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄		※各学期末にノートの提出をしてもらい、取組状況を確認します。									

教 科	保健体育	科 目 名	保健
-----	------	-------	----

知識・技能	到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查 レポート	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解し、社会のおよび環境への対策等を関連させることができる。	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解している。	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解できていない。
	安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查 レポート	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解し、社会のおよび環境への対策等を関連させることができる。	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解している。	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解できていない。
思考・判断・表現	到達目標	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題発見、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考	考查 レポート	事象や情報から課題を発見し、疾病リスク軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付け、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができていない。
	安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現する	考查 レポート	事象や情報から課題を発見し、危険予測・危険回避したり、傷害の悪化を防止したり、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す	ノート 授業態度	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめたり、話し合い活動等に積極的に参加している。	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめている。	各単元の学習に関心をもたない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	芸術 音楽Ⅰ	履修学年 単 位 数	1学年 2単位	考 査 範 囲 冊	評価の観点		
							知 識	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広くかかわる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				実 施 し ま せ ん			
教 材		使用教科書<音楽之友社>ON!Ⅰ 副教材<啓隆社> MUSIC NOTE							
学習の内容	1 学 期	4月	高校音楽の扉を開けて イメージをもって歌おう! ・ 校歌により親しみ、全員で斉唱する喜びを体験するとともに、表現を工夫しながら多様な表現形態による歌唱を体験する。 楽典Ⅰ ・ 音楽の基本的な知識を理解する。音名を理解できるようになる。				○	○	○
		5～6月	諸外国の曲を歌おう ・ 諸外国の歌曲と日本語の曲との違いを理解し、歌曲がもつ曲想を歌詞の内容や楽曲の背景などとかかわらせて、イメージをもって歌う。				○	○	○
		7月	中世・ルネサンス～バロック時代の音楽 ・ 中世・ルネサンス期～バロック時代の音楽について、声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して鑑賞し、楽曲の文化的・歴史的背景について理解を深める。 創作(1) 変奏をしてみよう ・ メロディーの雰囲気をもとに変化させたいかイメージしながら、そのための方法を工夫して変奏をする。			○	○	○	
2 学 期	9～10月	ギターを弾こう ・ ギターの音色や奏法の特徴を生かし、曲想にあった音楽表現を工夫し、イメージをもって演奏す 楽典2 ・ 音楽の基本的な知識を理解する。リズムを理解できるようになる。			○	○	○		
	11～12月	打楽器を演奏しよう ・ 打楽器(特にラテン・パーカッション)の基本的な知識・奏法を理解し、曲想やリズムに応じた音楽表現を工夫し、イメージをもって演奏する。 古典派の音楽 ・ 古典派の音楽について、声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して鑑賞し、楽曲の文化的・歴史的背景について理解を深める。			○	○	○		
3 学 期	1～3月	舞台芸術の世界 ・ オペラ、ミュージカル、歌舞伎などの舞台芸術の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもって、そのよさや価値について考え味わう。 世界の音楽 ・ 日本や諸外国の民謡の旋律や、声・楽器の音色の特徴、楽曲の文化的・歴史的背景に関心をもち、理解を深める。 創作(2) 旋律をつくってみよう ・ 音階の特徴を生かし、音楽を形づくっている要素の働きや構成を工夫して、自己のイメージにあった音楽をつくる。			○	○	○		
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 教科書とMUSIC NOTE(5月ごろ配布)を必ず持ってきましょう。 (2) 歌唱・器楽・創作・鑑賞の4分野について幅広く学びます。 (3) 鑑賞の際は、「感じたこと」「気づいたこと」「考えたこと」を記入します。 (4) 表現(歌唱・器楽・創作)の際は、楽器の扱い等丁寧にしましょう。 (5) 芸術は表現の教科です。「できるか」ではなく「やろうとしているか」が大事です。							
評価方法		(1) 知識・技能(授業・学習課題への取組、確認テスト・実技テスト等) (2) 思考・判断・表現(授業・学習課題への取組、実技テスト・確認テスト・レポート等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業・学習課題への取組、レポート、授業中の発言、実技テスト・確認テスト等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備考欄		芸術の学習において、その根本にあるのは「美」に対する探究心です。それを主体的に動かすためには、何よりも「美」を感じる、そして感じようとする姿勢を持つことが必要になります。まずは、様々な音楽に耳を傾けてみましょう。それから受けた感動を、自分なりに表現してみましょう。そこから芸術の学習は、始まります。と同時に、自分を表現する基本的な技術を身に付けるために、ある程度繰り返しの練習が必要です。自分の現在の力に応じて、個々の目標を設定し、その目標を達成できるように努力しましょう。							

教 科	芸 術	科 目 名	音楽 I
-----	-----	-------	------

知識・技能	到達目標	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	MUSIC NOTEの学習	MUSIC NOTE 確認テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	授業の内容	実技テスト 確認テスト レポート	授業の内容を理解し表現できた	授業の内容をおおむね理解し表現できた	全く理解・表現できなかった
思考・判断・表現	到達目標	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	表現の授業 (歌唱・器楽・創作)	確認テスト 実技テスト 発表	諸要素の働きを感受し、イメージをもって具体的に表現を創意工夫できた	諸要素の働きを感受し、イメージをもって表現を創意工夫できた	イメージをもって表現することができなかった
	鑑賞の授業	レポート 発表	諸要素の働きを感受し、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら深く味わって鑑賞できた	諸要素の働きを感受し、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって鑑賞できた	よさや美しさを自ら味わって鑑賞できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	芸術		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	美術Ⅰ		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		(1)表現の活動では、主題生成の能力、創造的に構想する能力、表現しながらさらに構想を確かめ練り直す能力、材料や用具の特性を生かし創意工夫して表す技能などを育成する。 (2)鑑賞の活動では、美術作品や文化財等に映し出された美や創造の素晴らしさ、人々の生活や願いなどを感じ取るとともに、生活を心豊かにする美術の働きや美術文化を理解する能力などを育成する。					実施しません	○	○	○
教 材		使 用 教 科 書 高校生の美術Ⅰ（日本文教出版）						○	○	○
学 習 の 内 容	1 学 期	オリエンテーション	・高校美術の意義、学習内容の心構えについて			○		○	○	
		鉛筆デッサン	・鉛筆の削り方、使い方、明暗、陰影などの表し方を身につける			○		○	○	
		人物画	・写真を元に描くフトリアリズムの作品を参考に鉛筆を用いて描き、モノトーンの表現を幅広く知る			○		○	○	
		鑑賞	・作者の視点に着目して、絵画を魅力的にしているものは何かを考え、表現の意図や工夫を読み取りながら鑑賞し、表現につなげる			○	○	○		
	2 学 期	静物画	・身近なものを見つめ直し、良さや美しさに気づき、感じ取ったことや考えたことなどを基に構想を練り、配置や構図を工夫して表現する			○	○	○		
		鑑賞	・アクリル絵具やキャンバスの特徴を知り、表現につなげる ・美術館の役割や楽しみ方について学び、文化祭での展示方法へ活かせるよう、作品展示の準備をする			○	○	○		
	3 学 期	デザイン	・デザインの世界の幅広さや役割を理解し、デザインとは何か、デザインするとき大切なことは何かを考えながら鑑賞し、表現につなげる ・色彩、文字、美の秩序などについて学び、季節を平面構成で表現する			○	○	○		
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 作品の提出 (2) ワークシート、スケッチブックの提出 (3) 画材の適切な使い方を理解し、安全に丁寧に使用する (4) 作品の鑑賞活動に積極的に質問や感想を発表する (5) 集中して作品を制作する								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度・作品・ワークシート・小テスト等) (2) 思考・判断・表現(授業態度・作品・ワークシート・小テスト等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・作品等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	芸術	科 目 名	美術 I
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実技	作品 スケッチブック	画材やモチーフの特徴を理解し、制作に活かすことができた	画材やモチーフの特徴を理解することができた	全く理解できなかった
	授業内容	ワークシート 小テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
思考・判断・表現	到達目標	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し、構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実技	作品 スケッチブック ワークシート 活動の様子	たくさんのアイデアを出し、十分に構想を練ることができた	いくつかアイデアを出し、構想を練ることができた	アイデアを出せず、構想を練ることができなかった
	鑑賞	ワークシート 発表 活動の様子	造形的なよさや美しさ、作者の心情や工夫について考え、十分に感じ方を深めることができた	造形的な良さや美しさ、作者の心情や工夫について考え、感じ方を深めることができた	全く考えることができなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	主体的に美術の幅広い創造活動及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実技	作品 スケッチブック	作品に対して疑問や課題を見つけ、解決することができた	作品に対して疑問や課題を見つけることができた	作品に対して疑問や課題を見つけることができなかった
	授業に取り組む姿勢	活動の様子	集中して時間いっぱい作品制作に取り組むことができた	集中して作品制作に取り組むことができた	作品制作に取り組むことができなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	芸術		履修学年	1年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	書道Ⅰ		単 位 数	2単位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		小・中学校国語科書写の学習を基盤とし、書道の幅広い学習活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。書に親しむ活動を通して完成を高め、書写能力の向上を図り、自己を主体的に表現するための能力を伸ばす。表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすとともに、書の伝統と文化について理解を深める。								
教 材		書道Ⅰ（教育出版）								
学 習 の 内 容	1 学 期	書の世界へようこそ		書の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握します。				○	○	○
		硬筆の学習		ボールペン等の書き方について習得します。				○	○	○
		漢字の学習		書の学習を始めるにあたり、書体の変遷や宅本についての理解を図ります。				○	○	○
		楷書の学習		各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関りを捉え、臨書活動を通して意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。				○	○	○
	行書の学習		各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関りを捉え、臨書活動を通して意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。				○	○	○	
	2 学 期	篆書、隸書、草書		各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関りを捉え、臨書活動を通して意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。				○	○	○
仮名の学習		我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を味わいその過程や仮名の種類、字源について理解していきます。				○	○	○		
料紙を作ってみよう		仮名の書に用いられてきた美しい加工を施した料紙の美について理解を深めます。				○	○	○		
3 学 期	漢字仮名まじりの書の学習		これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名まじりの書の制作を身につけます。				○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 清書作品の提出 (2) 途中経過の作品(添削)提出 (3) ワークシートの提出 (4) 作品制作に粘り強く取り組みましょう								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(作品・ワークシート・小テスト等) (2) 思考・判断・表現(作品・ワークシート・小テスト等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(作品・授業態度等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	芸 術	科 目 名	書 道 I
-----	-----	-------	-------

知識・技能	到達目標	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実 技	提出作品 (清書)	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、しっかり表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できなかった
	授業内容	ワークシート 小テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
思考・判断・表現	到達目標	書のよさや美しさを感じ意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実 技	提出作品 (清書)	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、しっかり表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できなかった
	授業内容	ワークシート 小テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	鑑 賞	ワークシート	書のよさや美しさを感じ受けとめることができる	書のよさや美しさを感じ受けとめることがおおむねできた	全く受けとめることができなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実 技	提出作品 (添削)	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、しっかり添削できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、添削できた	添削しなかった
	授業に取り組む姿勢	活動の様子	最後まで作品制作に粘り強く取り組むことができた	作品制作に取り組むことができた	作品制作に取り組むことができなかった

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科	外国語(英語)	履修学年	1学年 5単位	評価の観点				
科目名		英語コミュニケーションⅠ			単位数	考 査 範 囲	知 識 技 能	思 考 判 断 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		・日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。 2. 必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 3. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。 4. 必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 6. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 7. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 8. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 9. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 10. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。								
教 材		使用教科書＜開隆堂＞Amity English Communication Ⅰ 副教材＜開隆堂＞ Amity English Communication Ⅰ ワークブック 副教材＜旺文社＞英単語ターゲットⅠ200【改訂版】								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	学び直し ブロック体、文・動詞・前置詞・短縮形、文型、英語のルール be動詞(現在)・肯定文・疑問文・否定文・疑問詞 学び直し 一般動詞(現在)・肯定文・疑問文・否定文・助動詞			1 学 期 中 間 考 査	○			
		5月	学び直し be動詞(過去)・肯定文・疑問文・否定文・一般動詞(過去)・肯定文・疑問文・否定文 GET READY①② 日常生活の中で身近にある英語/和製英語 GET READY③月、曜日、日付、アルファベット GET READY④辞書の使い方、品詞の役割 Lesson1 The Beautiful Scenery (be動詞／一般動詞の現在形) ・お気に入りの場所について紹介する。訪れたい場所について話し合う。				○	○	○	
		6月	Lesson2 My best friend (be動詞／一般動詞の過去形) ・大切にしている人を紹介する。登場人物の気持ちについて話し合う。			1 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
		7月	Lesson 3 Love for Dance (進行形／助動詞) ・絵や写真から思ったことを表現する。ダンスの力について話し合う。				○	○	○	
		9月	Lesson 4 Endangered Species (不定詞) ・好きな動物について紹介する。絶滅危惧種を救うために何ができるかを話し合う。			2 学 期 中 間 考 査	○	○	○	
		10月	Lesson 5 The History of Chocolate (動名詞) ・大切な人に贈りたいと思う贈り物について説明する。チョコレートの歴史について話し合う。				○	○	○	
	2 学 期	11月	Lesson 6 Our School (比較) ・自身の学校の特徴について紹介する。高校生活でしてみたいことについて話し合う。			2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
		12月	Lesson 7 Serendipity (現在完了) ・どんなセレンディピティがあるか調べ、発表する。身近にあるセレンディピティについて話し合う。				○	○	○	
		3 学 期	1月			Lesson 8 Sapeurs (受動態) ・自分の宝物について紹介する。サプールの人々の考え方について話し合う。	学 年 末 考 査	○	○	○
			2月			Lesson 9 Special Makeup Effects (現在分詞／過去分詞) ・好きな映画やテレビ番組について紹介する。世界で活躍するカズ・ヒロさんの生き方について話し合う。		○	○	○
			3月			Lesson 10 Clear Water (関係代名詞) ・自分の生活を振り返り、水分の摂り方について説明する。小田兼利さんの生き方について話し合う。 COMMUNICATE +① 店で外国人客に対応するとき(対話練習) COMMUNICATE +②町で外国人に道案内するとき(聞き取り練習・対話) Reading tupera tupera(関係副詞／仮定法) ・新進気鋭の絵本作家ツベラさんについての英文を読み、作品に触れ、その世界観やメッセージについて自ら考える。		○	○	○
								○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2)必要な教材(教科書・ノート・ファイル・PC／タブレット・単語帳)を準備して授業に臨む。 (3)授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4)授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5)週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。								
評価方法		(1) 知識・技能(授業：小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト、定期考査等) (2) 思考・判断・表現(授業：ノート・ワークブック・英作文レポート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト、定期考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業：ノート・振り返りシート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト・授業態度、課題提出物) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄										

教 科	外国語(英語)	科 目 名	英語コミュニケーション I
-----	---------	-------	---------------

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できており、間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄か、提出ができていない。
	授業	パフォーマンステスト	課題の内容を正しく英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し、間違いの修正や書き直しもされている。	授業内容を記している。	空欄が多く、授業内容を記せていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容を工夫して表現している。	自分の考えを記したり表現ができています。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを深く記せ、内容を工夫して、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり、表現ができています。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	発表プレゼンテーション	内容を工夫して、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題提出物	期日内に提出ができ、内容も完全に記せている。	提出ができ、内容も概ね記されている。	提出ができない。内容が記されていない。
	授業	発表プレゼンテーション	内容を工夫して、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	授業態度	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲が欠けている。
授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるように、発表内容を工夫して詳しく話そうとしている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。	

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	情報		履修学年	1 学 年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「情報Ⅰ」		単 位 数	2 単 位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。								
教 材		使 用 教 科 書： 東京書籍 新編情報Ⅰ 副 教 材： 東京書籍 新編情報Ⅰ 資料ノート								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション ・学習目標とシラバスを理解する。 ・実習用コンピュータやタブレットの使い方を理解する。 1章情報で問題を解決する ・情報やメディアの特性を理解できる。 ・問題を発見・解決するための一連の流れを理解できる。				1 学 期 末	○		○
			・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解できる。 ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につける。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性について理解する。 ・情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解する。					○	○	○
		5月	・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解できる。 ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につける。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性について理解する。 ・情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解する。					○	○	○
			・文書処理ソフトウェアの基本的な操作を学習する。					○	○	○
		6月	2章情報を伝える ・情報デザインの考え方や方法を理解し、表現する技能を身につける。					○	○	○
			7月 1章情報で問題を解決する ・情報技術による社会・生活の変化が理解できる。 2章情報を伝える ・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、科学的に理解する。					○	○	○
	2 学 期	9月	・表計算ソフトウェアの基本的な操作を学習する。				2 学 期 末	○	○	○
		10月	4章データを活用する ・データを蓄積、管理、提供する方法について学習する。 ・データベースの役割や活用について学習する。 ・目的に合わせたデータの利用方法を学習する。					○	○	○
			・プレゼンテーションソフトウェアを使用してスライドを作成し、発表する。					○	○	○
		11月	2章情報を伝える ・アナログとデジタルの違い、2進法と情報量の単位との関係を理解する。					○	○	○
		12月	4章データを活用する ・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素について学習する。					○		○
			学年末					○	○	○
3 学 期	1月	・プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解する。 ・コンピュータの仕組みや特徴について理解し、コンピュータの演算の仕組みについて学習する。				学 年 末	○	○	○	
	2月	・アルゴリズムの表現方法やプログラムの作り方について学習する。					○	○	○	
	3月	・モデル化やシミュレーションについて学習する。					○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 授業の目的を理解し、疑問に思ったことはメモを取ったり、質問したりしましょう。 (2) 授業には、意欲を持って積極的に参加しましょう。 (3) 発表等、自分の考えを述べるできるようになりましょう。また、聞く態度も身につけましょう。 (4) 説明事項や板書は、必ずワークシートに記入しましょう。 (5) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(小テストや定期考査、ワークシートの記述、作品等) (2) 思考・判断・表現(定期考査、ワークシートの記述、発表、作品の制作や表現等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(振り返りシートの記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	情 報	科 目 名	「情報Ⅰ」
-----	-----	-------	-------

知識・技能	到達目標	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	知識の習得	・小テスト ・定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	理解できなかった
	知識の概念化	・ワークシート記述 ・定期考査	学んだ知識を活用ながら、自分なりの言葉で説明することができている	学んだ知識をもとに、内容を説明することができる	説明することができなかった。
	情報技術を活用する技能の習得	・作品制作	技能の習得に必要な知識を主体的に身に付け、作品制作に活用している	技能の習得に必要な知識を与えられて身に付け、作品制作に活用している	作品制作に活用できていない
思考・判断・表現	到達目標	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	複数の情報を結び付きの視点から捉える	・定期考査 ・ワークシートの記述	学習内容について具体的に記述があり、学んだことが理由とともに示されている	学習内容やその感想が記載されている	学習の内容についての記述がある
	情報技術を適切かつ効果的に活用する	・作品の制作や表現	大変分かりやすく、内容を表現できている	ややわかりやすく、内容を表現できている	全くわかりやすくない用を表現できていない
	発表姿勢	視線 声量 スピード	堂々と聴衆を見ながら明朗な声とスピードで発表できている	時々聴衆を見ながら発表し発表できた。	ほとんど聴衆を見ずに発表していた
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題解決型の学習	・ワークシートの記述	課題を自分のこととして受け止め、よりよく解決するために、見通しを持って粘り強く取り組むことができている。学習内容について具体的に記述があり、学んだことが理由とともに示されている	課題を自分のこととして受け止め、よりよく帰結するために取り組もうとしている。学習内容やその感想が記載されている	課題を自分のこととして受け止め、よりよく解決するために取り組むことができない
	学習の調整	・自己評価、相互評価 ・振り返りシート	感想部分に十分な記述があり、次の学びにつながる振り返りができている	感想部分にある程度の記述があり、振り返りができている	見通しが持てず、感想もあまり記述できなかった
	学習態度	・授業中の発言 ・教師による行動観察	発問に対して意欲的に考え、聞き手を納得させる根拠を持った発言をしている 各活動に対して積極的に参加し、分からないところがあれば質問、または調べたりしながら理解につなげようとしている	発問に対して意欲的に考え、発言をしている 授業中の各活動に参加し、理解につなげようとしている	発問に対して考え、自分の意見を持とうとしない 授業中の各活動への取り組みが物足りない。理解しようという姿勢が乏しい

